

LGBT って何？



～すべての人が生きやすい社会にするために～

世の中にはいろいろな人がいます。自分と同じ人は世界中どこを探してもいません。

考えることも、大切なことも、みな違います。ですから「性」に対する考え方についても、人それぞれ違って当然です。

LGBT を理解することで、一人ひとりの違いを「その人らしさ」として認め、お互いを大切にすることは、すべての人が生きやすい社会につながっていきます。

「性」に関する主な要素として「からだの性」「こころの性」「好きになる性」「表現する性」の4つがあげられます。

「性」に関する4つの要素

その人の生き方や「自分らしさ」にかかわるさまざまな「性」のあり方は、単に生まれた時の性別が、「男」か「女」かというだけではなく、いくつかの要素が組み合わさってできていると考えると、理解しやすく、100人いれば100通りあると考えられます。

「性」に関する「4つの要素」

私の恋人は女性です

Bさんの場合
 からだの性 女 ← → 男
 こころの性 女 ← → 男
 好きになる性 女 ← → 男
 表現する性 女 ← → 男



からだの性 (生物学的な性)
 生まれたときのからだの特徴によって、男性と女性に分けます。

Aさんの場合

からだの性 女 ← → 男
 こころの性 女 ← → 男
 好きになる性 女 ← → 男
 表現する性 女 ← → 男



やさしい男子と付き合いたいな

こころの性 (性自認)

「からだの性」に関係なく、その人が自分の性別をどのように感じているかです。多くの人は「からだの性」と「こころの性」が一致しています。しかし、「からだは男性だけど、自分では女性だと思っている」というように、からだとこころの性別が一致しない人もいます。また、自分が男性なのか女性なのかわからない、どちらにもあてはまらないという人もいます。

一人ひとり違う「性」の考え方

男子・女子、両方好きになったことがあるよ

Cさんの場合
 からだの性 女 ← → 男
 こころの性 女 ← → 男
 好きになる性 女 ← → 男
 表現する性 女 ← → 男



好きになる性 (性的指向)

どの性別を恋愛や性的な関心の対象にするかです。世の中の多くの人々は異性を好きになると考えています。しかし、同性を好きになる人や同性も異性も好きになる人、どの性別にも恋愛感情や性的な関心を持たない人もいます。

男と女とが決められない

Dさんの場合
 からだの性 女 ← → 男
 こころの性 女 ← → 男
 好きになる性 女 ← → 男
 表現する性 女 ← → 男



表現する性

服装や髪形、しぐさや言葉遣いなどによって、自分の性別をどのように表現するかです。多くの人は「からだの性」の性別にそった自己表現をします。しかし「からだの性」と「こころの性」が同じでない人は、「こころの性」にそった自己表現をすることもあります。

ボクがときめくのは男子なんだ

Eさんの場合
 からだの性 女 ← → 男
 こころの性 女 ← → 男
 好きになる性 女 ← → 男
 表現する性 女 ← → 男



「世の中には男性と女性の2種類の性別しかなく、それぞれの性別にふさわしい外見やふるまいがあり、男性は女性を愛し、女性は男性を愛する」という考え方は、「当たり前」のものとして社会全体に広がっています。大多数の人が意識する、しないにかかわらず、この考え方に影響された生き方をしています。しかし、この考え方は、決して絶対的なものではありません。

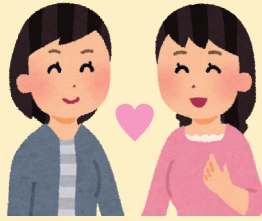
同性と異性の両方を恋愛の対象にする人、「からだの性」と「こころの性」が同じでない人たちもいます。このような人たちは、性に関する考え方における少数派という意味で、「セクシュアル・マイノリティ(性的少数者)」と呼ばれています。最近では、「LGBT(エールジービーティー)」という呼び方が世界中で一般的に使われるようになってい

LGBT

とは「レズビアン (Lesbian)」「ゲイ (Gay)」「バイセクシュアル (Bisexual)」「トランスジェンダー (Transgender)」の頭文字を組み合わせた言葉です。

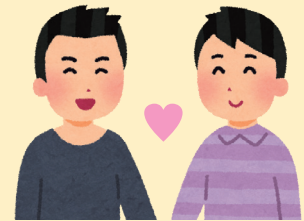
L レズビアン

女性で「好きになる性」が同性 (女性)の人。



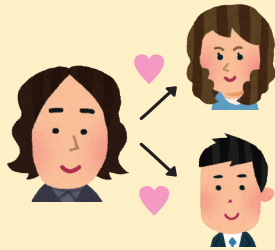
G ゲイ

男性で「好きになる性」が同性 (男性)の人。



B バイセクシュアル

「好きになる性」が同性の場合も異性の場合もある人、または相手の性別にこだわらない人。



T トランスジェンダー

「からだの性」と「こころの性」が一致せず、違和感を持っている人。

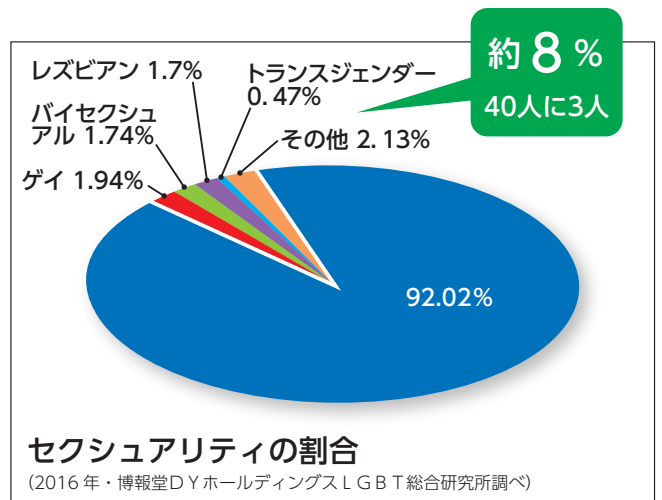


この他にも、恋愛や性的なことに関心を持たない人、自分のこころの性がはっきりわからない人など、さまざまなかたちがあり、LGBTは、L、G、B、Tの4つだけでなく、それらを含めたセクシュアル・マイノリティ (性的少数者) 全体を指す意味で用いられています。

2016年に全国の20〜50代の8万9366人を対象にした調査では、LGBTの人たちの割合は、約8%という結果が出ています。学校の1クラス40人の教室に3人いることとなります。マイノリティ (少数派) というものの、とても身近な存在だと思いませんか。ちなみに左利きの人や血液型がA B型の人と同じくらいの割合です。

LGBTかどうかは、本人が言わない限り人に気づかれにくいものです。中には、自分のことをLGBTだと気づかない人や認めたくない人もいます。あなたの周りにもいて、その存在に気づいていないだけかもしれません。

まわりに「いなり」ではなく「気づいたらなり」だけ



いろんな人がいる。

一人ひとり違うことを理解し、
みんなが自分らしく生き、お互いを大切にしよう

一人ひとりの違いは「そのひとりの違い」



多数派、少数派の違いはあっても、LGBTとそうでない人の間には、はっきりした境界があるわけではありません。みんなと違って数が少ないからといって「不自然」「異常」ではなく、みんなと同じで数が多いからといって「自然」「正常」ではないのです。

一人ひとりの違いを「その人らしさ」として認め、お互いを大切にします。このことをみんなが理解することは、すべての人が生きやすい社会へつながります。

参考文献 「よくわかるLGBT 多様な「性」

を理解しよう」藤井ひろみ監修 P

HP 研究所